

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称
東洋製罐株式会社 広島工場
- (2) 事業所の所在地
広島県三原市下北方1丁目4番1号
- (3) 業種
ブリキ缶その他のメッキ板等製品製造業
- (4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画期間は、平成25年(2013)年度を基準とする令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの8年間とする。

3 計画の基本的な方向

環境ビジョン

- 1) CO₂排出量を大幅に削減する「低炭素社会」
- 2) 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」
- 3) 自然から恵みを受け続けることができる「自然共生社会」

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成25年度	直近年度 令和2年度
二酸化炭素	70,434	28,880

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC) (PFC) (SF ₆) (NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25年度)		削減目標		目標年度 (令和12年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO ₂	70,434	58.0	40,852	29,582		
非エネルギー起源CO ₂						
メタン						
一酸化二窒素						
その他 温室効果ガス						
温室効果ガス 実排出量総計						
温室効果ガス みなし排出量						
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ の排出量2019年度比50%削減で全社的に計画 但し、広島工場は水害の影響により基準年度を2013年で算出 電気は中国電力(株)の実排出係数を使用					

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a)/(b) 原単位見込(g) = (e)/(f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	LNGの使用量を4.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・オーブンの低燃焼 ・ガス暖房機の見直し
2	電気使用量の削減	電気の使用量を4.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・照明設備のLED化 ・エアークレートの見直し ・エアークレートの見直し ・オーブンの低燃焼 ・ガス暖房機の見直し
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

